# 動物小學

松本駒二郎纂輯
伊藤奎介校閲

卷上

大日本教育會書籍館
三五函
三架
六六號
二册

特37
532
49

057596-000-0

特37-532

動物小学　巻上

松本　駒二郎／編

M14
CAR-0184

特37
539

明治十四年新彫

伊藤圭介校閲
松本駒次郎纂譯

# 動物小學 全二冊

文部省
博物局御用書肆 東京 錦森閣藏

八七六八



定向樊

神哉造動物管轄使
人全甘脆牛豚羹炳
挺虎豹鮮波閙魚潛
雲傑鳥翩〻陳列大塊
上厥勲遍赫然

特37
532



崖山焚

神哉造動物管轄使
人全甘脆牛豚羹炳
鏗虎豹鮮波閙魚潑
雲傑鳥翩之陳列大塊
上厥勳遍赫然

# 澤達閣舊遜氏動物小學附載詩

錦章充人伊藤圭介題

明治十四年
第七十九号
伊藤圭介
書畫記

原文小引

夫レ動物ノ學タル兒童ノ殊ニ嬉ヘルモノナレハ此書ヲ讀マシムルニ故ラニ勸奬スルヲ要セス時ニ或ハ教師ノ意ニ任シ書外ノ精シキヲ說クモ亦敢テ倦怠セサルヘシ

然リ而シテ茲ニ數條ノ言ヲ揭クルモノハ世ノ童蒙ヲ訓フル人ニ對シテ此學ハ啻ニ童心ヲ娛シマシムルノミナラス緊要欠ク可ラサルモノタルノ實ヲ告ント欲シテナリ

童幼ノ物ニ就キ事ニ感スルノ心ヲ起サシムルハ眞ニ人ヲ教フルモノヽ天ニ對セル職務ト謂フヘシ蓋シ事物ヲ忽ニセサルノ心ヲ開クハ萬有ノ工ニ顯ハレタル神智ニ眼ヲ注キ縱令賤シキ生類タリトモ皆活機ヲ具ヘテ運營シ各其生ヲ

遂ルノ天惠ニ心ヲ留メシムルノ善キニ如クモノナシ凡ソ地ニ走リ天ニ翔リ水ニ游ヒ山ニ戯ムル、鳥獸蟲魚ヲ觀ルトキハ孰カ造化智慮ノ精シキト化育ノ至レルニ驚カサランヤ一タヒ其妙工ニ驚カハ自カラ其恩惠ノ渥キニ感スルニ至ルヘシ

動物ノ種類タル漸次相近似シテ終ニ判然彼是ヲ分別スル能ハサルニ至ル其數實ニ夥多ニシテ本編ノ如キ頗ル論說ノ詳悉ナルヲ務メタリト雖モ紙數自カラ限リアルヲ以テ尚ホ動物界ノ概略ヲ舉ケ其一班ヲ表シタルニ過キサルノミ今茲ニ用フル所ノ分類法ハ最モ明晰タルカ故生徒ノ最モ了解記憶シ易キハ久シク實際ニ就テ證セシモノニテキヴイエル氏ノ法ニ基キ歐洲ノ諸大家ノ研究ト余カ勉學トニ由テ增補改正セシモノナリ

書中萬有ノ經營ニ於ケル動物ノ用ヲ舉ケ動物ヨリ得ル所ノ食品材料ヲ記シ統計表ハ最モ確實ナルモノヨリ抄出セリ

動物ノ緊要ナルヲ左ニ示ス

哺乳類ハ人ニ重要ノ食品ヲ供シ又骨、革、蹄、角、皮、毛、皮、毛等ヲ以テハ百種ノ器具ヲ製スルヲ得ヘク加之ス骨革等ノ器物ニ用ヰシ殘餘ト雖モ尚ホ肥料ニ充テ頗ル價アリ

飛禽ヨリ得ル所ノ利益亦許多ニシテ最モ切要トス例ヘハ炎熱ノ地方ニ於テハ腐敗シテ疾病ノ因トナルヘキ汚穢ヲ

除去シ或ハ鵞毛管ヲ給シ學者文人モ之ニ依テ思想發明ヲ人ニ傳フルヲ得ヘク或ハ柔軟ナル枕ヲ製シテ疲勞ノ頭ヲ安ンスルノ料ヲ産シ其肉及ヒ卵ハ健康滋養ノ食トナリ其好音ハ人ノ心ヲ悦ハシム夫レ百花四邊ニ爛熳トシテ芳ヲ競ヒ香ヲ放ツハ人ノ愛翫スル所ナレヒ林棲ノ羽族愛スヘク嬉シムヘキノ樂ヲ奏シ粲然タル羽翼ヲ翻シ欣々トシテ樹梢ニ遊フハ亦樂シカラスヤ

爬蟲類ハ人ノ最モ賤視スルモノト雖ヒ尚ホ龜肉龜甲ノ貴品アリ魚類ハ其肉人ヲ滋養スルノ效アリ且其腸臟ハ食料ニ製シテ高價アリ又軟體動物ハ墨魚骨（イカノフネ、シンボジエ）眞珠貝殼（カイガラ）等ヲ供ス（カットルボーン　パアール　シエルス）多節動物ノ一類蝦蟹等ハ千萬人ノ食トナリ昆蟲類ハ蜜蠟（ホネーバチノクツス）紫梗顏料（ラックレジン　ダイ）絹帛（シルク）等ヲ造リ莫大ノ價値ヲ收ム又最下等ノ動物ハ地皮ヲ造成スル少ナカラス石灰層等是ナリ彼ノ珊瑚礁及ヒ海底ニ繁茂セル海綿ハ即チ造化ノ恩惠ニ出テ最下最微ノ生物ヲシテ人ノ利用ニ入ラシムルモノナリ

以上擧ル所ハ動物界所産ノ僅々ニ過スト雖ヒ聰明ノ教師ハ之ニ由テ教科ノ趣旨ヲ敷衍スルヲ得ヘク且此等ノ物多クハ得易キカ故ニ生徒ヲ教授スルニ其深ク喜ヘル實物課ノ體裁ヲ取ルモ亦難カラサルヘシ

抑動物學ハ萬物主宰ノ工ヲ研究スル學ナレハ徒ラニ文章ノ間ニ徘徊シ或ハ貿易ノ利ニ奔走スルモノニ比スレハ頗ル高尚ノ思想ヲ起スヘシ即チ自カラ動物ノ妙機其用ヲナ

スノ功ヲ思察シ大小ノ生物各其敵ヲ防クノ器ヲ具ヘ其住メル地方ト其食スル品物トニ應セル齒牙胃臓手足アルノ狀如何ヲ識ルヘシ

各種ノ動物生々シテ其生ヲ樂ムノ機器ト能力トヲ天ニ稟ケ兼テ人類ノ幸福ヲ助クルヲ見レハ何等ノ動物タリトモ之ニ暴虐ヲ加ユルハ天造ヲ破毀スルモノト謂フヘシ故ニ我ニ害アルカ或ハ必用ナルニ非サレハ夾シテ其生ヲ奪フ可ラス

故ニ此書ハ動物學ヲシテ一層廣ク諸般ノ學校ニ行ハレシメント欲シテ著述シタレハ假令動物ニ對シ殘虐ヲ行フヲ拒絶スル能ハサルモ大ニ之ヲ抑制スルノ効アルヘシト余ハ信スルナリ

例ヘハ一童子アリ器械製造ノ工事ニ服役シ日暮家ニ歸リ偶〻精巧ナル機關ノ模型ヲ見ハ或ハ手ヲ觸レ損害スルカ將タ之ヲ保庇シ之ヲ熟視シ其巧妙ヲ歎美スルニ至ランカ是其機關ノ造構如何ヲ知リ其使用ニ適セシムルニハ無限ノ注意ト精細ノ工夫ヲ費セルヲ目擊セシ故ニ敢テ輕忽ニセサルナリ

生活セル機關ニ於ケルモ亦然リ童子既ニ學校ニ在テ動物ノ課ヲ學ヒ微々タル小蟲モ造化ノ恩惠尚ホ巨象ニ異ナラサルヲ知リ動物創造ノ工ニ驚カハ家ニ歸ルノ途犬馬ニ逢フモ或ハ擲チ或ハ蹴ル等ノ舉ナカルヘシ無害ノ蟲豸地ヲ穿

チ雨ヲ浸スノ奇功ヲナスヲ知ルトハ爲メニ急キノ足ヲ轉シテ路傍ノ蟲ヲ踏殺シ再ヒ蘓スル能ハサルノ命ヲ輕ンスルヿナカルヘシ又昆蟲ノ機器精細ナルヲ鏡ニ映シテ見レヿアラハ生キタル蝴蝶ニ針ヲ刺シ罪無キ青蠅ノ足ヲ拔カサルニ庶幾カラン

童子ハ將來人ノ父タリ而シテ斯ノ如ク幼年ノ日ニ矯メシ意想ノ習慣ハ遂ニ其性ドナリ成人ノ後動物ヲ虐セントスルノ妄心自カラ去リ推シテ同類ノ人ニモ亦凶暴ヲ加ヘサルニ至ルヘシ

童女ハ後生ノ母タルナリ幼兒ハ其膝下ニ在リテ事ヲ學ヒ終身忘ル、能ハサルノ感覺ヲ受ルノ源ナレハ少女ニ此學ヲ教ユヘキノ旨趣ハ毫モ童子ト異ナルヿナシ殊ニ仁柔温和ノ性行ハ婦女ヨリ學フヿ世ノ常ニシテ母妻姊妹ハ男子ノ強暴ヲ和ラケ夫ノ及ハサルモ過ルヿナキノ風ヲ薫染スルモノナレハ女子ニ在テハ反テ切要ナリトス

嗚呼造化ノ恩惠厚シト謂フヘシ世ノ母タルモノヲシテ動物界ヨリ善美ノ教訓ヲ得セシメ子之カタメ母ヲ敬愛シ母之カタメ其子ヲ萬福ノ源ニ導クヲ得ル幾層ノ多キヤ知ルヘカラサルナリ

眼ヲ轉シテ人類ノ營生ヲ觀レハ造化萬物ヲ人ノ左右ニ羅列シ其幸福ヲ助クル一ニアラス牛ハ郊野ニ草ヲ食ヒ羊ハ山上ニ生ヲ維キ鳥ハ空際ニ飛ヒ魚ハ水中ニ游クモ餌食ス

ル所ノ滋養ハ肉ニ變シ以テ人ノ食ニ供シ或ハ勞動シテ人ノカヲ助クルモノ地上氣候ノ度ニ應シテ存セリ詩句豈妄ナラン詩句二三アリ萬有人ノ有タルヲ云ヘリ童蒙ニ解シ難キカ故茲ニ省略ス

エッリス、エ、ダヴィッドソン



# 動物小學

## 緒言

一此書ハ英國ノ貴女ダヴイッドソン氏ノ著ハセル「アニマル、キングドム」ノ動物界ト題セル小冊子ヲ飜譯セシモノナリ然レ𪜈原書中英人ニ親クシテ我ニ疎キモノハ務メテ之ヲ省略シ聞又他書ヨリ補フ所アリ

明治十四年八月

譯者識

# 動物小學

## 目次

動物分類法
第一小界　有脊動物
第一綱　哺乳類
第一目　單孔類
第二目　腹囊類
第三目　游水類
第四目　厚皮類
第五目　翻蹄類
第六目　無齒類

第七目　齧齒類
第八目　殺生類
第九目　食蟲類
第十目　翅手類
第十一目　四手類
第十二目　二手類
第二綱　鳥類
第一目　食肉類
第二目　棲木類
第三目　緣木類
第四目　亂搔類
第五目　步走類
第六目　涉水類
第七目　游水類
第三綱　爬蟲類
第一目　龜類
第二目　蜥蜴類
第三目　蛇類
第四目　蝦蟆類
第四綱　魚類
第一小綱
第一目　刺鰭類
第二目　軟鰭類

第二小綱　軟骨類
無脊動物
第二小界　多節動物
第一綱　環蟲類
第二綱　多足蟲類
第三綱　昆蟲類
第四綱　蜘蛛類
第五綱　甲殼類
第三小界　軟體動物
第一綱　頭步類
第二綱　翼步類
第三綱　腹步類
第四綱　臂步類
第五綱　擔殼類
第六綱　軟殼類
第四小界　射形動物
第一綱　刺衝類
第二綱　珊瑚蟲類
第五小界　初等動物
第一綱　腐水蟲類
第二綱　根柢類

動物小學目次終

# 動物小學卷之上

松本駒次郎 譯
伊藤圭介 閲

凡ソ何等ノ業ニ從事シ何等ノ學ニ就クモ一定ノ法ニ隨ヒ進路ヲ整理スルトキハ其業事大ニ爲シ易シ此秩序萬有ヲ編シ天下ノモノ一トシテ適然占ムヘキノ地位アラサルハナク萬物各殊別ノ狀貌習性能力アリテ差異或ハ大ナルアリ小ナルアレトモ更ニ他ト混スルヿナシ動物學者ノ諸生物ヲ綱目屬種ニ區分スルヲ得ルハ特リ各動物ノ體軀ト生活ノ狀ヲ細心詳驗スルニアリ

動物ノ一大學者ヲバロンヽキュヴイエルト云フ一小武官ノ子タリ一千七百六十九年八月廿三日從前ウルテン

ブルグノ一都會ニシテ現今佛國ニ屬セルムンペルガードニ生レ十歲ノ時既ニ動物學ヲ好ミ年稍長シテ或ル私塾ノ教師トナリ茲ニ在ル六年此間專心其好尚スル所ノ學ヲ勉メタリシカ上達最モ速カニシテ千七百九十五年巴黎ニ至リテ遂ニ博士ニ任セラレタリ當今世上ニ專ラ用フル所ノ動物分類法ハ此人ノ創始ニ係ル其死ハ千八百三十二年五月十三日ニ在リ

今茲ニ分類法ノ用ト特ニ其無カル可ラサルトヲ解釋セン現今北亞米利加ニハ殆ント全世界各邦ノ人民アリテ必ス故國ノ親戚朋友又ハ同業ノ商賈ニ信書東包ヲ贈ラント欲スルモノ多カルヘシ母ノ印度ニ在ルニ音信ヲ通セント欲スルアリ兄ノ支那ニ在ルニ東包ヲ贈ラントスルアリ日本ニ信書英倫ニ商品喜望峯白露等ニ信書商品ヲ遞送セント希フモノアルヘシ

此著手ノ第一歩ハ信書東包ヲ類別スルニ在リテ之ヲ類別スルトハ印度支那日本ハ共ニ亞細亞洲ニ在ルヲ以テ其地ニ往クモノハ歐羅巴亞非利加南亞米利加ナル英倫喜望峰白露ニ贈ルヘキモノニ比スレハ關係相近キヲ知ル故ニ先世界ノ大別ニ隨テ東包等ヲ分類スト雖モ印度支那日本ノ如キハ共ニ大洲ノ一部タレハ大別ノミニテ事尚充足セス故ニ指ス所ノ都邑街衢ニ至ラシメ適然其家ニ達セシメンカタメニ再ヒ類別セサルヲ得ス

全ク其家ニ至ラシムルニ如何スヘキヤ今日本人ノ信書ニ由テ解ヲナサン或ル外國ニ在留スル人若干ノ書

籍ヲ購求セント欲シ東京日本橋區馬喰町二丁目一番地石川治兵衛氏ニ宛テ書狀ヲ發シタリトセン扨此名稱ハ信書ノ達スル所ヲ明解スルノ備ニシテ初メ亞細亞ニ往クヲ知リ次ニ日本タルヲ解シ終ニ東京ニ至ルヘキヲ見ル然レ𪜈東京ハ廣大ノ都府ナレハ數十ノ區町ニ分レタルニ今此信書日本橋區ノ標記アルヲ以テ京橋以北淺草以南ニ行クモノナリトシ再ヒ其街衢ニ應シテ分類シ其區ノ配達者ニ托ス然ルニ配達者尚住家ノ番號姓名ニ從テ分類シ遂ニ其家ニ投ス終始斯ク分類ノ法ニ依テ他ノ信書モ亦其家ニ達スルヲ得ルナリ

斯ノ如ク世上ノ事物皆類別アリ故ニ今各個ノ動物ヲ論スルニ先タチ諸動物如何ノ部類ニ分ル、カヲ知ルヿ肝要ニシテ分類明瞭ナルトキハ論説頗ル簡明ナルヲ覺フヘシ

若干ノ動物相等シキモノ之ヲ一種(スペシース)トス鼷鼠種ノ如キ是ナリ其種中或ハ老タルアリ若キアリ或ハ肥大ナルアリ瘠小ナルアレ𪜈此ノ如キハ眞ノ差異ニアラサルヲ以テ彼此ノ別ヲ立ル能ハス

然レ𪜈氣候等ニ由テ毛色ヲ變スルアリ或ハ本性ヲ變セスシテ些少形狀ノ差ヲ生スルヿアリ即チ鼷鼠ニ灰色ナルモノアリ班駁ナルモノアリ白色ナルモノアリ

之ヲ變種ト謂フ

要點相似ルト雖モ些末ノ差異アリテ彼此相分ル、數種ヲ合シ之ヲ屬ト謂フ即チ鼠ハ海狸或ハ野兎ト同性ノ齒ヲ具フレモ其尾ノ尖長ナルヲ以テ明ラカニ別アリ然レモ長尾其他頗ル家畜ノ鼠ニ相似ル動物アラハ之ヲ同屬ナリトス

目ハ一層廣キ部聚ニシテ數屬ヲ併ス例ヘハ鼠海狸等ノ諸屬ヲ合セ齧齒類ノ目トスルカ如シ尾ニ各屬ノ異アリト雖モ尾ハ固ヨリ生々ノ狀ニ關係大ナラス即チ鼠ノ尾ハ長ク海狸ノ尾ハ廣平ニシテ鱗アリ栗鼠ハ刷毛ノ如キ叢尾ヲ具シ豪猪ハ短キ硬毛ノ尾アリト雖モ



諸屬物ヲ齧ムニ適切セル尖リタル鑿狀ノ門齒アルハ同一樣ニシテ要點異ナラス故ニ之ヲ一目トス

合括尚一歩ヲ進ムルヲ得ヘシ即チ數目ヲ併セ一綱トス子ヲ携帶スルノ嚢ヲ有スル動物アリ軀幹巨大ニシテ水中ニ住ミ呼吸ハ水面ニ來リテナスモノアリ皮膚厚キモノアリ食ヲ翻弱スルモノアリ齒牙ナキモノアリ堅硬ノ木ヲ耗ルモノアリ肉食ニ命ヲ維クモノアリ手ヲ飛翔ノ機トスルモノアリ足ニ拇アリテ手ノ如ク使用スルモノアリ或ハ二手アリテ談話思考スル生靈アリ實ニ其差異甚シト雖モ一大事ノ相等シキアリ即チ其産ム所ノ稚兒ニ乳哺スル是ナリ之ヲ總稱シテ哺

乳類ノ綱トス

元來動物學ハ千百動物ノ形狀習性ヲ敎フルノミナラス之ニ從事スルトキハ一物ヲ他物ニ比較シ各動物ノ狀貌習性ノ異ナルヲ檢視セサルヲ得サレハ事物ヲ探究スルノ念慮習慣トナリ秩序綿密ノ二事亦心ニ固着スルヲ以テ此學ノ緊要ナルハ讀者ノ既ニ知ル所ナルヘシ今予ハ動物ノ分類ヲシテ極メテ明瞭ナラシメンカヲ盡スト雖ドモ讀者書籍ヲ以テ足レリトセス自カラ實物ニ就キ黽勉講究セスンハアル可カラス何トナレハ動物各〻特性アリテ此特性ハ即チ動物ヲ檢視スルノ好料ナリ而シテ自カラ之ヲ熟視シ他人ノ說ク所ト比較シテ各動物ノ機器其生活ニ適スル妙工如何ヲ察知スルトキハ自カラ又造化ノ智慮ヲ察シ最微ノモノダモ尚ホ其恩澤ニ浴スルヲ思フヘケレハナリ

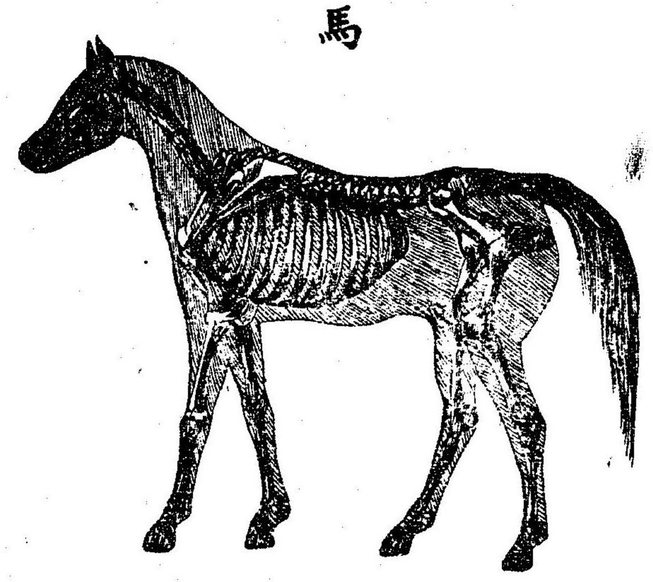
キュヴィエル氏動物界ヲ四個ノ小界ニ分テリ此分類法ハ世間一般ニ用フル所タレハ本書モ此法ニ隨ヘリ然レトモ近頃動物學者ノ知見大ニ開ケタルカ故後章ニ見ユルカ如ク類別一歩ヲ進メタルハ同氏ノ法ト異ナリ左ニ示スハキュヴィエル氏ノ法ニ隨ヒ分類セル者ナリ

- 有脊動物（ヴェルテブレーテド）
- 無脊動物（インヴェルテブレーテド）
  - 多節動物（アーティキュレーテド）
  - 軟體動物（モラー、ボディー）
  - 射形動物（ラディエーテッド）
    - 壯蠣、蝸牛、烏賊等（カトルフィッシュ）
    - 海盤車、蒐葵、海膽等（シー、アネモーン）

各小界ノ首眼タル狀形ヲ記憶センニハ各小界特異ノ性ヲ悉ク具フルモノ各一物ヲ執リ之ニ心ヲ留ムルニ如カス此一物ヲ正種（タイプ）ト謂フ

第一ヨリ第四ニ至ルノ四圖ハ大ニ裨益アルヘシ何トナレハ馬ニ（第一圖）脊骨アルハ衆人ノ知ル所ニシテ脊骨アル諸動物ハ有脊動

第一圖
馬





第二圖
蟹

物タルヲ容易ニ記憶セシメ又蟹（第二圖）ヲ見ル片ハ堅キ甲アリテ骨骸トナリ有脊動物ノ如ク體内ニ在ラスシテ體外ニ顯ハレ且全身ノ各部交接スルモノヲ多節動物ト名クルヲ記シ易カラシムレハナリ但シ此外骨必スシモ蟹、蝦等ノ如ク堅キニ非ス蜘蛛及ヒ昆蟲ノ如ク只皮膚ノ厚キ

カ如キモノアリ然レトモ顯微鏡ニ照ラシテ之ヲ檢視セハ最モ微サキ昆蟲ノ脚モ亦蟹ノ如ク多節ナルヲ見ルヘシ

眼ヲ轉シテ蝸牛第三圖ヲ見ヨ都テ此類ノ動物全體軟ラカナレハ其形チ少シク異ナルアルモ皆之ヲ軟體動物ノ小界ニ入ルヘキヲ知ルヘシ但

第三圖

蝸牛



シ蝸牛ノ殼ト多節動物ノ甲トハ同一視ス可ラス蟹等ニテハ此外套ハ即チ外骨ナレトモ軟體動物ニ在テハ其殼其體ト連接セス只動物ノ脊ニ負ヒ時アリテ其内ニ隱匿スル家ナルノミ

園ニ遊ヘル蝸牛ハ殼アリト雖トモ之ニ彷彿タル土蝸（ナメクヂ）ハ介ヲ有セス又半介ヲ有シテ恰モ足ラサルカ如キモノアリ故ニ軟體動物ハ必ス硬キ外套ヲ具フルモノト思フ可ラス

又海盤車ハ讀者ヲシテ此小界ノ動物其形チ星光ノ支分セルカ如クナルヲ以テ射形動物ノ名アルヲ悟ラシムヘシ但シ近來顯微鏡ノ改良セシヲ以テモヴィエル氏

以來新動物ヲ發見シ其他研究セシモノ多クシテ此小界ヲ再整セリ其委シキハ後章ニ讓ル

各動物ノ形狀ヲシテ明瞭ナラシメンニハ成ル可ク大形ニ畫クヲ要トス故ニ篇中彼是ノ畫ヲ比フレハ其適度ヲ失スルモノ少ナカラス

第四圖

海盤車

有脊動物ヲ分ツ左ノ如シ

首眼ノ特性

哺乳類
- 胎生ニシテ哺乳シ肺ニ由テ呼吸ス
- 其血液ハ温ナリ

鳥類
- 卵生ニシテ前肢翅トナリ肺ニ由テ呼吸シ血液温ニシテ全身羽ヲ著ク

爬蟲類
- 卵生ニシテ四肢ヲ具シ或ハ具セス
- 肺ニテ呼吸シ血ハ冷ニシテ全身過半鱗アリ

兩棲類
- 陸棲動物ノ肺ト水族ノ鰓トヲ具ヘテ水陸兩ナカラニ棲ム（下巻本條ニ於テハ略シテ爬蟲類ニ編入セリ）

魚類
- 卵生ニシテ四肢ナク呼吸ハ鰓ニ由リ

全身鱗ヲ纏フ

## 哺乳類（マンマリア）

哺乳類ト名クル一大綱ノ第一特性ハ其名ノ由テ起ル所ニシテ稚兒ニ乳哺スル是ナリ

哺乳類ハ肺ニテ呼吸シ二耳二室アル心臓ヲ具ノ人ハ萬物ノ靈ナレハ此心肺ノ兩機人體ニアリテハ最モ完全ナリトス而シテ諸動物ノ機器人ニ類似スル遠近ヲ以テ其上下ノ等級ヲ定ム

哺乳類ニ於テハ齒ハ大緊要ノ具ニシテ其食物ト習性ニ適當スルモノナリ即チ人ハ食物ノ品種ヲ撰ハサルモノナレハ各種ノ齒ヲ兼具シ單ニ生肉ヲ食トスルモノハ門齒尖針ノ如ク其餌ヲ刺シ齟齒剪刀ノ如ク合離シテ其食物ヲ碎クニ便ナリ草芻ヲ食トスル動物ハ門齒廣ク尖リ上齶ノ牙肉ニ對シテ草ヲ剪ル恰モ鉞ノ木ヲ斬ルニ似タリ其齟齒ノ廣平ニシテ横ニ動キ物ヲ碎クハ彼牛馬ニ見ルカ如シ

哺乳類ノ足ハ亦其生々ノ狀ニ適ス即チ駱駝ノ足蹠ハ廣クシテ海綿ノ如ク砂磧ノ原野ヲ跋渉スルニ便利ニシテ脛ニ坐褥ノ如キモノアリ時々其上ニ跪ツクヲ得セシメ獅ニハ強鋭ノ爪アリテ能ク餌ヲ捕ヘ獼猴ノ足ハ手ノ如ク樹梢ニ攀ルニ宜シク又馬ノ如キ貨物ヲ荷フテ尋常ノ地ヲ行歩スルモノハ蹄アリ天然輕鞋ヲ具

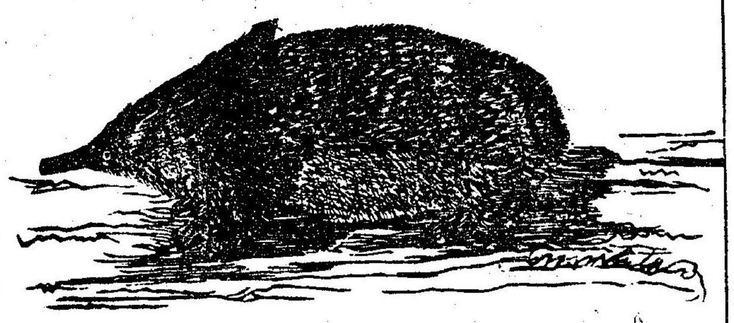
フルモノト謂フヘシ

哺乳類ノ齒脚ハ各動物特異ノ用ニ適スルカ故分類ハ專ラ此二點ニ基ック

## 單孔類（モノトレマタ）

單孔類ハ胎生動物ト卵生動物トヲ合スルカ如キ一目ニシテ濠太利亞ノ外産スルノ地鮮ナシ現今僅カニ二屬ヲ見ルノミ一ヲ食蟻（ポルキニ・パイシ）猬（アルマヂール）ト云ヒ一ヲ鴨嘴獸（カモノハシ）（バックビルド、プラティパス）ト云フ食蟻猬ハ體小ニシテ鼻嘴ノ如ク此鼻ト爪ヲ以テ地ヲ穿チ蟻其他

第五圖



食蟻猬



昆蟲ヲ食トス舌長クシテ餌ヲ口ニ聚ムルノ狀略食蟻獸（アントイーター）ニ似タリ全身猬（ハリネズミ）（ヘッジホグ）ノ如キ刺毛ヲ纏ヒ敵ニ襲ハルヽトキハ身ヲ展轉シテ之ヲ禦ク若シ軟土ニ在ルトキハ地ヲ穿チ其中ニ隱ル其隱ルヽノ迅カナル實ニ魔ノ如シ

鴨嘴獸ハ鼷鼠ニ似テ吻鳥嘴ノ如シ其異形ナルハ恰モ人工ニ出ルカ如ク初メテ歐羅巴ニ舶來セシ時ハ動物學者モ天造ニ非サルヲ疑ヒシト云フ眞ニ奇獸ト謂ツヘ

第六圖

鴨嘴獸

シ此獸時トシテハ長サ五十尺餘ノ穴ヲ穿チ其極端ニ草莠ヲ聚メ巣ヲ作リ子ヲ養フ其嘴ヲ以テ食ヲ求ムルノ狀鴨ニ異ナラス且鴨ノ如ク指間ニ膜アリテ巧ニ水ヲ潛ル而シテ其土ヲ穿ツ中ハ蹼膜收縮シ惟リ爪ヲシテ自由ナラシム狀貌奇ナリト雖モ其身ノ幸福ヲ資ケ且子ヲ養育スルニ至テハ欠ル所ナキ斯ノ如シ

## 腹囊類（マルスピアルス）

此目ノ主眼ナルモノハ濠太利亞及ヒ亞米利加ニアリ牝ノ腹外ニ囊アルヲ以テ此名ヲ得タリ

腹囊類ノ正種タル囊鼠（カンガルー）ハ固ヨリ卵生ニ非スト雖モ其初テ生レシキハ極メテ小弱ニシテ自カラ哺乳スル能ハス其母ノ腹囊中ニ在テ乳房ニ附着スルノミ當時其皮ハ肉色半透明ニシテ尾極メテ短カク前肢ハ却テ後肢ヨリ長キ一三分ノ一ナリ子ノ囊中ニ在ルハ八ケ月ニシテ此間時々頭ヲ出スハ恰モ世界ノ何部ニ住スルカヲ窺フニ似タ

第七圖　囊鼠

リ若シ嚢外ニ落ルトキハ母獸前肢ヲ以テ之ヲ拾ヒ再ヒ嚢中ニ納ムル而シテ其月滿ツルトキハ重サ十斤アリテ漸々嚢外ノ眞世界ニ出テ一己ノ地位ヲ占ムル然レモ其始メハ些少ノ驚ヲ聞クモ忽チ嚢中ニ歸ル已ニ成長ニ至リ幼稚ノ兄弟嚢中ニ在ルモ尚時々頭ヲ入テ乳汁ヲ飲ムノ癖アリ

嚢鼠成長スルトキハ形狀大ニ變ス後肢前肢ヨリ却テ長ク尾亦長クシテ厚シ其前肢ハ草ヲ食フトキ等ノ如キ前ニ傾クノ外之ヲ用ウルヿ稀ニシテ後肢ト尾ニ由テ直立シ尾ハ彈機ノ如ク動作シテ進行飛跳ヲ常トス足ニハ四指アリ中指大ニシテ强ク蹄ノ如キ爪ヲ具ヘ緊要ノ兵器トナス獵犬ノ之カタメ害ヲ受クルヿ屢々ナリ

## 游水類（セヲシア）

游水類ハ形チ魚ニ類シ且游泳ノ働キヲナスノ二肢アルノミナレハ他ノ哺乳類トハ自カラ別アリ游水類ノ尾ハ魚類ノ如ク體ノ側面ニ平行セスシテ之ト直角ヲナシ水面ニ平行ス尋常ノ行進ニハ此尾ヲ斜メニ上下左右シ人ノ水上ニ在テ舟ヲ漕カ如クス

凡ソ動物ノ脂肪ハ皮膚ノ下ノ肉ノ上ニ在リテ皮ヲ剥クモ依然トシテ存スルハ市店ノ牛肉ニ見ルカ如シト雖モ鯨類ニ於テハ皮膚過半脂肪ヨリ成ル是此動物ニ欠ク可ラサルノ造構ニシテ第一水ノ體熱ヲ減スルヲ防

キ第二水壓ヲ支ヘ第三浮泛ノカヲ助ク

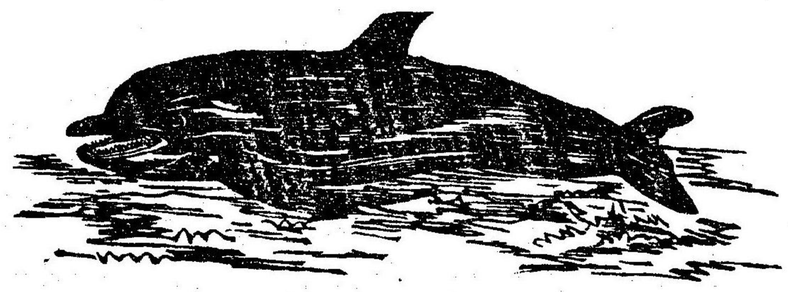
游水類ヲ食肉食草ノ二小目ニ區別ス

食肉游水類ハ海豚（イルカ）、鯨魚（クジラ）等ナリ

海豚ハ上下ノ齶ニ光リタル細齒アリテ其鼻嘴ノ如シ性甚タ食ヲ貪リ群ヲナシテ船ヲ追ヒ船中ヨリ投棄スル所ノ廢物ヲ拾フ

海豚ノ一族ニ一角魚（ウニコール）ト云ヘルモノアリ（シーユニコルン）益シ牡獸ニハ二本ノ門齒アリテ一ハ八尺乃至一丈ノ長サニ達シ第二齒ハ更ニ成長セス故ニ其狀恰モ一角ヲ具フルカ如シ是レ此名ヲ得シ所以ニシテ此齒ニハ螺旋條アリ其質ハ象牙ト異ナラス

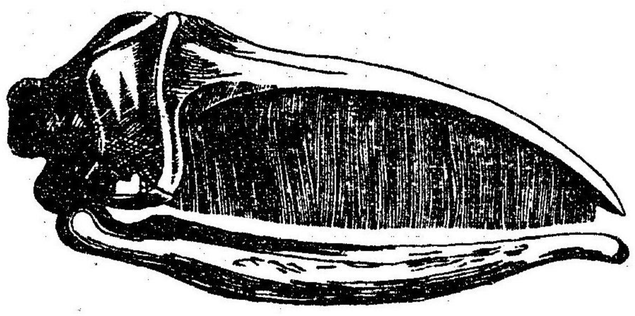
第八圖



海豚

鯨魚ハ世人ノ普ク知レルモノニテ齒ナク鯨鬚（ホエールボーン）ト云ヘルモノアリ簾ノ如ク口中ニ垂懸スル第九圖ノ如シ故ニ水中ニ在テ口内ニ吸入スルモノ多シト雖ヒ細微ノ海中動物ヲ除クノ外

第九圖



鯨鬚

一小魚ヲモ呑ム能ハサルナリ其鼻孔ハ頭頂ニ在リテ水面ニ達スレハ直チニ呼吸スルヲ得ヘク而シテ又水裡ニ半時ヲ過スヲ得ヘシト雖モ通常八分時乃至十分時毎ニ水面ニ來リテ呼吸シ前キニ口中ニ入リシ水ヲ鼻孔ヨリ噴出ス此種類ノ鯨ハ脂肪ノ厚サ一二尺アリ其脂肪ハ我儔ニ利用アルノミナラス極寒地方ノ人ニハ殊ニ緊要ニシテ常ニ其肉ヲ食ヒ其油ヲ飲ム此等ノ飲食我儕ニ在テハ甚タ口ニ適セスト雖モ寒國ニ於テハ他ノ食物ニ乏シク且體溫ヲ適度ニ保ツニハ之ニ過ルモノナキヲ以テ欠ク可ラサルノ食品トス

食草游水類

食草游水類ニハ海牛及ヒ人魚ノ二類アリ

海牛ハ大西洋ノ瀕ニ多シ其皮強硬ニシテ肉甚タ味アリ之ヲ干シ或ハ鹽藏スルトキハ年ヲ越テ美味ヲ失ハスト云フ其口ハ圓ク其鼻孔ハ鯨魚ノ頭上ニ在ルカ如クナラスシテ前面ニ在リ尾ハ厚ク肉アリテ人魚ノ尾ニ似ス又人魚ハ其髏骨海牛ト異ニシテ上齶下方ニ曲リテ牙ノ如キ二齒アリ能ク海草ヲ截リ口ニ聚メテ食トス

以上二種ノ動物ハ其頭首ヲ水面ニ出シ尾ヲ空際ニ翻シテ游泳踊跳スルノ奇癖アリ而シテ牝獸ノ稚子ヲ育ツルトキハ一肢ニ子ヲ抱キ他ノ一肢ニテ水ヲ搔キ母子

共ニ首ヲ水面ニ出シ游泳スルヲ常トス此獸親愛ノ情最モ深キカ如ク若シ牝牡ノ一ヲ捕ファルトキハ其配ヲ得ル甚タ易ク恰モ獨リ殘リテ生ンヨリ寧ロ死ヲ共ニシテ憂ヲ忘ル、ニ若カストセルカ如シ

前條哺乳類ノ特別ナルモノヲ論セリ即チ胎生ト雖モ胎兒全ク成熟セスシテ生ル、モノト哺乳類ニシテ魚類ノ形狀習性アルモノトヲ論セリ今茲ニ改メテ尋常ノ哺乳類ヲ説ントス而シテ之ヲ二大目ニ分ツ

有蹄類（指趾集合シテ蹄アルモノ）

有爪類（指趾分立シテ末ニ爪アルモノ）

有蹄類二目ニ分ル

厚皮類（象ノ如キヲ云フ）

翻芻類（牛羊ノ如キヲ云フ）

有蹄厚皮類

一 象（五趾アレトモ蹄ノ如クシテ端末ヲ顯スノミ）

二 豕（ブタ）

三 馬

象ハ專ラ草芻ヲ食トス其體ハ大ナリト雖モ温和順良ニシテ猥リニ人ヲ殘害セス且怜悧ニシテ能ク人ノ好意刺薄ヲ記憶セルモノ、如シ

象牙ハ上齶ヨリ下ニ向テ前ニ突出セル二個ノ齒ニシテ牙一對ノ量ハ四五百斤アリ故ニ之ヲ支持スルニハ

其短頸ナルヲ必要トス蓋シ鼻ノ長キハ頸ノ短キヲ補フモノニテ上下左右自在ニ轉曲シ其末端ニ短カキ指様ノモノヲ具ヘ能ク針ヲ撮ミ紐ヲ結フ等ノ技ヲ爲ス且牙ハ突出シテ食物ニ口ヲ寄スルヲ妨クルカ故ニ飲食モ亦鼻ニ頼ル

象ニ印度亞非利加ノ二種アリ

㊀印度種ハ頸長ク牙短カク耳小ニシテ後肢ニ四蹄アリ

㊁亞非利加種ハ耳大ニシテ後肢ニ三蹄アリ印度種ヨリ頭圓ク牙甚タ長クシテ性強猛ナリ

象ハ巧ニ水ニ泳ク又通常十百群ヲナシテ山野ニ遊フニ群中第一ノ老獸之カ先導トナリ第二ノ老獸之カ殿ヲナスト云フ象ハ極メテ長生ノ者ニシテ二百年ノ齡ヲ保ツモノアリ其幼獸ハ狎レ易ク土人捕テ以テ乘駕ノ用ニ供シ且軍事ニ用フルヿ古今共ニ其例少ナカラス而シテ荷物ヲ運フヿハ二千斤ノ重荷ヲ負ヒ一日ニ四十里ヲ行ク

野猪（サウシ、ボーア）ハ家豕（ブタ、ピグ）ノ原種ニシテ家畜ノ豕ヨリ鼻長ク牙大ニシテ強猛ナレ𪜈他ニ之ト異ナル處ナシ惟食ハ草芻ニ止マラスシテ亦生肉ヲ食フ然レ𪜈發怒スルニ非サレハ他獸ヲ屠ルヿナク都テ其行路ニ當ルモノヲ食トスルナリ

厚皮類ノ一群單蹄類ト名クルモノハ唯馬驢ノ一族アルノミニテ狀貌習性皆殆ント馬ノ如シ而シテ齒ノ數及ヒ其整伍ハ毫モ之ト異ナラス上下ノ門齒六枚左右ノ齟齒各六枚アリテ齟齒ノ頭ハ方形ニシテ琺瑯質全部ヲ包ミ上端圓ク凸出ス壯獸ニハ上齶ニ小サキ二牙アリテ下齶ニモ亦之レ有ルヿアレ𪜈此獸ニハ絶テ犬牙ナシ蓋シ人此脅力有益ノ動物ヲ使用スルヲ得ルハ齒ノ整伍一種特別ナルニ由ル其齟門齒ノ間全ク空虛ニシテ人茲ニ勒ヲ銜マセ以テ制御スルナリ

馬ハ古來人ノ使役セルモノナレ𪜈其原種ヲ知ル能ハス且現今野馬ト稱フルモノモ亦曾テ人ニ畜養セラレ後チ放タレテ野棲セシモノヽ子孫ナリト云フ馬ノ其一族ト異ナル著キ狀貌ハ尾毛直チニ臀肉ヨリ叢生スルニ在リ

馬ハ殆ント世界各國ニ産シテ其性勇豪穩當又頴悟ニシテ順從ナリ間人ノタメニ盡力勞動シ重荷ヲ擔フテ死タモ辭セサルヿアリ

驢（ウサギウマ）ハ馬ヨリ小クシテ尾端ニ總毛アリ往時ハ馬ニ代ヘテ使役シ軍事ニハ殊更ニ之ヲ用ヒシモノヽ如シ見今尚（ホ）亞細亞大陸ニテハ軍用ニ供スル所アリ

驢ハ足殊ニ健ナリ故ニ山ニ登ルニ用フルヿ多シ余モ曾テ此從順ナル獸ニ乘リテ嶮隘纔カニ足ヲ容ルヽノ

嶢岩ヲ歴テ無難ニ行旅ヲ遂ケシコアリ

驢ハ食ヲ撰ハス之ヲ養フノ費少ナキニ由リ英國ニテハ貧民負荷ノ獸トナシテ多ク之ヲ使用ス然レトモ飲水ノ清淨ナルヲ好ムハ實ニ奇ナリトス

班驢（シマウマ　ゼブラ）ハ南亞米利加ノ産ナリ形狀雅麗ニシテ柔皮ニ點スル繻狀ノ班紋ハ實ニ動物中ノ最美ト稱スヘシ然レトモ猛暴頑固ニシテ未タ人ニ馴牧セラレシコトナシ

## 翻芻類（ハミナシツ）

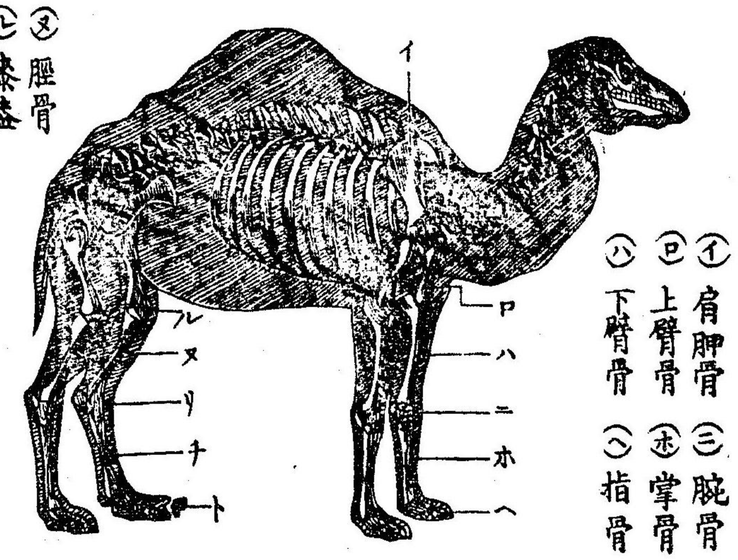
翻芻類トハ一タヒ嚥下セシ食物ヲ再ヒ口ニ戻シテ更ニ嚙碎スルモノヲ謂フ其足ハ雙蹄ヲ具ス又其上齶ハ恰モ俎板ノ如キ形チヲナシテ門齒ハ下齶ニノミ存シ以テ地上ノ草ヲ嚙スルニ適當セルモノナリ翻芻獸ニ二類アリ一ハ角ナキモノ一ハ牝牡或ハ牡獸ノミニ角アルモノトス

無角翻芻類　無角翻芻類ハ胃腑ノ造構並ニ齒及ヒ足ノ他獸ト異ナルモノナリ駱駝、麝ノ二類之ニ屬ス

駱駝ハ砂漠ノ舟ト稱シ亞剌比亞、波斯等ニテハ最モ有用ノ獸タリ其足ハ雙蹄ヲナサス趾長ク蹄至テ小ク足蹠扁平柔軟ニシテ硬皮ヲ被フリ四脚及ヒ胸部ニハ坐褥ノ如キモノヲ具ヘテ跪クトキハ其上ニ坐ス斯ノ如ク其體軀殊別ノ造構アルニ由テ砂漠ヲ疾驅シ七八百斤ノ重荷ヲ擔フテ一日ニ十二三里ヲ行キ纔カニ一個ノ

第十圖

駱駝ノ骨骸




㋑ 肩胛骨　㋺ 上臂骨　㋩ 下臂骨　㋥ 指骨　㋭ 掌骨　㋬ 脛骨　㋣ 足骨　㋠ 膝蓋　㋡ 脚根骨　㋢ 趾骨

人ヲ乗スルカ如キハ二十四時間ニ三十里ヨリ四十里ヲ走ル且胃腑ノ造構ハ尋常翻芻類ト異ナリ夥多ノ小室ニ分レテ特ニ巨量ノ水ヲ容ルヽニ宜シク十日乃至十二日間ノ飲料ヲ之ニ貯フルヿヲ得ヘシ若シ又食ニ乏キトキハ背後ノ肉鞍ト稱スルモノ能ク諸體ヲ養ヒ恰モ贅物ノ如キ脂肉ニ由テ命ヲ維キ飢餓ノ憂ヲ免ル故ニ遠征ノ後ハ肉鞍著ク瘦瘠ス然レ𪜈暫時美食ヲ與ヘテ牧養セハ忽チ其舊ニ復スト云フ

麝類　麝類ハ其形チ鹿ノ如クナレ𪜈大サ纔ニ野兎ニ過キス唯眞麝ハ二尺四五寸ニ達スルノミ眞ノ麝ハ中央亞細亞ノ産ニシテ牡ニハ小嚢アリ其中ニ彼貴キ香料ヲ蓄フ上齶ニ長キ牙アリテ足ニハ後ヘニ二趾ヲ加附ス毛ハ強硬ニシテ直立シ較猬毛ニ似タリ

有角翻芻類　其角動物ノ生命ト榮枯ヲ同フスルモノト歳々落テ更ルモノトノ二類アリ

常角ヲ具セルモノハ牛、羊、山羊、羚羊等家畜ノ類ニシテ

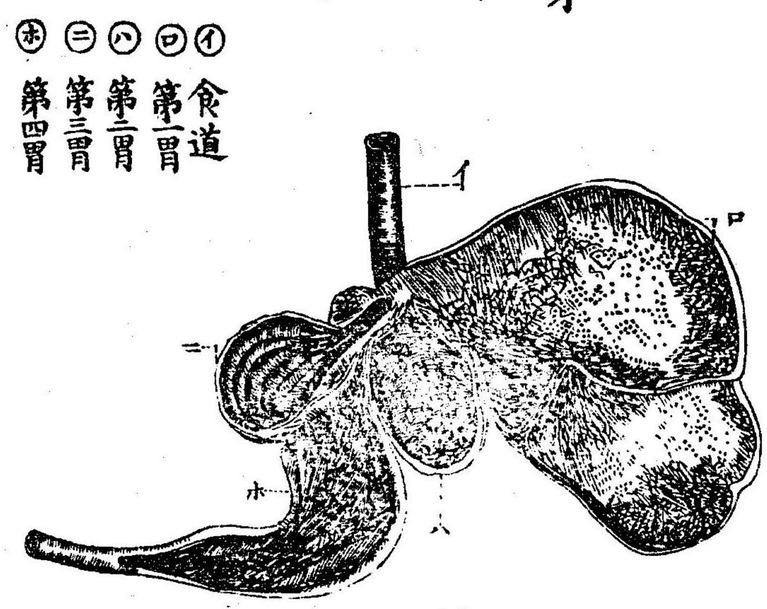
角心ニ室アリ額骨ト相通シテ空氣ヲ含有ス而シテ外部ハ角質ト稱シテ纖維ノ累層セルモノニテ不斷成長ス之ヲ空角ト名ツク又麒麟(キリン)等ニ在テハ其角短小ニシテ直立シ角心ニハ外套ヲ具セスシテ頭ノ他部ト等シク毛皮ヲ被フルニ過キス

一年ニシテ枯落スル角ハ鹿類ノ具セルカ如キモノニシテ之ヲ又角ト稱ス中心充實シテ柔皮ヲ蔽ヘリ此皮ニハ血管ヲ具シ滋養ヲ角ノ諸部ニ輸ル此類ノ角ハ年々變更シテ年一年ヨリ枝又多ク且其大サヲ增ス

都テ翻芻類ハ其性怯懦ニシテ强ク意ニ激スルニ非サレハ淺害ヲ行ナフ甚タ稀ナリ熱國ニハ多ク其住スルアリテ常ニ猛獸ノ襲フ所トナル然レ𪜈其敵ヲ防クノ具ハ僅カニ一雙ノ角アルノミニテ之ヲ使用スルニモ固ヨリ相當ノ勇氣ナカル可ラス然ルニ猛獸ハ之ニ跨リ爪牙ヲ以テ背腹ヲ傷クル等ノ虐威ヲ逞フスルヲ以テ安全ヲ保ツハ到底逃避スルノ他術ナシ胃ノ造搆ハ此時ニ當テ漫然大食シ後更ニ適宜ニ嚙碎スルニ適セシメンカタメニ造レルモノニテ讀者第十一圖ヲ見レハ翻芻類ノ食物ヲ消化スル何等ノ方法ニ依ルカヲ解得スヘシ初メ先第一胃ト名クル大囊ニ入リ水氣ト暖氣ヲ受テ柔軟ニ成リ容量大ニ減シ夫ヨリ第二胃ト云ヘル許多ノ小室ヲ具フル小囊ニ至リ此處ニ於テ小

球形ニ壓縮セラル但シ獸ノ呑メル水ハ直チニ第二胃ニ達スルカ故第二胃ニテ一層ノ濕氣ヲ帶ヒ再ヒ口ニ復ル夫ヨリ更ニ第三胃ニ至リ遂ニ第四胃ニ達シテ眞ノ消化ヲ受ク而シテ第二胃ヨリ口ニ復ルヲ翻芻ト云フ

第十一圖




翻芻類ノ胃

彼牛羊ノ泰然地上ニ臥シ半ハ目ヲ閉チ恰モ世事ヲ察スルカ如キ狀ヲナシテ腮ヲ左右ニ動カセルハ即チ翻芻セルモノナリ蓋シ草菜人ノ滋養トナルハ水ニ浸シ熱ニ溫メ初テ巧用アルモノナレハ吾人必ス之ヲ煮ル然レ𪜈牛ハ草ヲ食ヒ身躬カラ水火ノ用ヲナシ能ク之ヲ肉ニ變ス人ノ牛肉ヲ食フハ牛ノ食ヒシ此滋養物ヲ受用スルモノナリ

翻芻類ハ獨リ胃ノ其習性ニ適スルノミナラス眼ハ前面ニアラスシテ頭ノ左右ニ位シ能ク前後ヲ見ルヲ得其瞳子ハ殆ント圓形ニシテ頗ル周圍ノ眼界ヲ廣クス蓋シ虎類ノ眼瞳ハ楕圓ニシテ狹隘ノ窩中ニ位シ跳テ

餌食ヲ捕ルノ性ニ應シテ前視ヲ鋭クシ人ハ萬物ノ長タルヲ以テ圓瞳四周ヲ見セシム又翻匐類ノ耳ハ遠ク後ニ在リテ自在ニ動キ音ヲ聞クニ迅速其方向ヲ轉スルヲ得鼷宦モ亦甚タ鋭キモノトス

牛ハ諸動物中最モ有用ノモノナリ即チ生テハ耕耘其他ノ激勞ヲ執リ或ハ乳汁ヲ以テ人ノ健康ヲ助ケ死シテハ膚肉肝臓心臓等貴重ノ食料トナリ血液角蹄皮毛脂骨臓腑皆製品トナリテ日用ニ入リ一片ノ廢物ヲモ生セサルナリ

## 有爪獸（アガイキュレーテッド）無齒類（エデンタタ）

無齒ヲ以テ此目ノ名トスレ𪜈目中數多ノ齒ヲ有スルモノアリ然レ𪜈全ク門齒ノナキハ皆同一ナリトス

此目二類ニ分ル食草類食蟲類是ナリ

第一族ニハ樹獺（ナマケモノ スロス）ノ一羣アリ曾テ動物學者此動物ハ不具ニシテ天惠ヲ得サルモノトセリキュヴィエル（リースイーティングインセクトイーティング）氏モ亦天不具異形ノ物ヲ生シテ自ラ快ヲ取レリト云ヒシカ天焉ソ不具ノ動物ヲ造リ以テ自ラ慰ムルモノナラン哉是全ク人ノ天意ヲ窺ヒ知ル能ハサルノ浅見ニ出ル妄想ニシテ偶〻樹獺ノ地上ニ歩スルヲ見シヨリ起リシ説ナランカ樹獺ハ已ムヲ得サルノ外地上ニ行歩セス常ニ樹木ノ間ニ住ム然レ𪜈獼猴等ノ如ク樹上ニ在ラス

シテ樹枝ニ懸リ脊ヲ下ニス故ニ其體軀ノ造構ハ樹枝ニ垂ルヽニ適當シ脚強ク前肢ノ長サ後肢ニ倍シ四肢各内ニ曲リテ樹枝ヲ握ルニ便ナリ其地上ニ在ル片バ不具ニ異ナラスト雖ヒ木ヲ攀ルニハ極メテ輕捷ニシテ常ニ木葉及ヒ野

第十二圖

樹獺

草ノ萌牙ヲ食トス齒ハ臼磨ノ用ヲナサス單ニ食ヲ碎クノミ胃ハ頗ル奇ナリ較翻芻類ノ如ク數室ニ分レ能ク其食セシ植物ヲ消化ス

樹獺ハ樹枝ニ垂テ眠ル其多數ノ昆蟲ニ攻擊セラル、キハ木叉ニ坐シテ幹ヲ抱キ首ヲ曲テ胸部ノ毛間ニ隱シ以テ敵ノ侵襲ヲ避ク

第二類ニハ南亞米利加ノ食蟻獸（アリクヒ）亞非利加亞細亞ノ龍鱗（センリン）等アリテ食蟻獸ハ硬キ粗毛ヲ被フリ巨大ナル刷毛狀ノ尾ヲ具フ龍鱗ハ全身角質ノ鱗ヲ纏ヒ尾ハ體ノ長ク延ヒシカ如シ食蟻獸ハ其名ニ示セルカ如ク白蟻ヲ食ヒ生活ス其爪ハ鋭クシテ鼻長ク尖リ舌細ク長クシ

テ粘液ヲ帯フ爪ヲ以テ己カ巣窟ノ土ヲ掘リ鼻ヲ挿入レテ舌ヲ出シ蟻其舌ニ粘着スレハ舌ヲ引キ之ヲ食フ又危難ニ逢フ片ハ首ヲ曲ケテ胸ニ著ケ全身ヲ縮メテ尾ヲ被フリ恰モ田野ニ見ル乾草堆キカ如キ

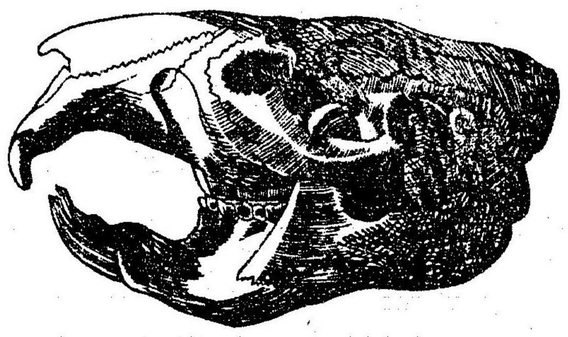
第十三圖　食蟻獸

狀ヲナス

嚙齒類（ロデンツ）

第十四圖

齧齒類ノ頭顱



嚙齒類ハ其數夥シク哺乳類ノ半ハ此目ニ屬ス皆小獸ニシテ其主眼ノ特性ハ齒ニアリテ大ナル四枚ノ門齒上下ニ分レ前面ニ突出シテ恰モ二對ノ鑿ヲ合スルニ異ナラス其食物ハ家鼠（チヅミラット）ノ如ク更ニ撰ハサルモノアリト雖モ多クハ木皮木根等植物ノ較堅キモノニ限ル栗鼠ノ胡桃ヲ削リ鼠及ヒ鼯（ハツカ）

鼠（チズミス）ノ戸ヲ齧リ穴ヲ穿ツハ讀者ノ既ニ知ル所ナリ凡ソ工匠堅硬ノ木ヲ理ムルニハ先ツ初メ粗砥ニ摩シテ鑿ノ刃ヲ成シ次ニ精砥ニ由テ其刃ヲ鋭クス然ルニ海狸ハ家ヲ築クニ毎日樹枝ヲ截リ栗鼠ハ胡桃ヲ摧キ鰡鼠ハ穴ヲ穿ツ等各〻工事ニ時日ヲ重ヌト雖モ曾テ齒ヲ鋭クスルヲ要セサルナリ是珪瑯質他ノ動物ニテハ多クハ全部ヲ蔽フト雖モ齧齒類ニ於テハ只〻前一面ヲ蔽ヒ軟部ノ耗ルヿアルモ惟リ屹立シテ成長ノ止ムキナク常ニ大サヲ減スルヿナキニ由ル又齲齒ハ平廣ニシテ頭ニ珪瑯質ヲ被フリ植物ヲ食フモノハ圓ク其他ハ尖レリ而シテ齧齒類ハ鰐ヲ前後ニ動シ上下ノ齒ハ鑪ノ如ク相擦摩ス

齧齒類ハ鎖骨アルモノト鎖骨ナキモノトノ二類アリ蓋シ鎖骨ハ胸骨ニ抗シテ肩ヲ支ユルモノナルカ故之ヲ有スルモノハ必ス前肢ヲ激用スルモノナリ即チ海狸栗鼠（リス）等ハ此類ニシテ豪猪（ヤマアラシ）野兎（ノウサギ）等ハ第二類ニ屬ス

第一類ノ主眼ノモノハ其尾ノ形狀ニ由テ之ヲ三族ニ區別ス即チ第十五圖ニ示セル海狸ノ尾ノ如ク廣クシテ鱗アルモノト第十八圖ノ栗鼠ノ尾ノ如ク

第十五圖

海狸

大ニシテ刷毛ニ似タルモノト家鼠ノ尾ノ如ク圓クシテ鱗アルモノトニ分ツ海狸ノ樹枝ヲ折リ水堰ヲ作リ宛然巨屋ヲ建ルハ各人ノ知ル所ニシテ其家ヲ作ルニ必ス先ツ木材ノ皮ヲ剥キ之ヲ食料ニ備フ栗鼠其他此類ノ動物亦食ヲ貯フルノ性アリ

第十八圖

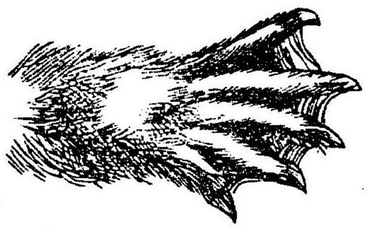
栗鼠

第十六圖

海狸ノ手

第十七圖

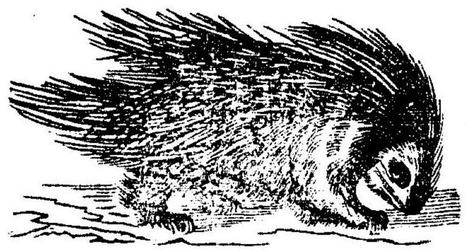
海狸ノ足



豪猪第十九圖ヲ見ルヘシハ異形ノ獸ナリ其刺毛ハ鵞毛ト同質ナリト云フモノアレ𪜈然ルニアラス尋常獸毛ノ大ナルモノニテ意ニ任シ起伏スルノミ其頭ニハ粗ナル鬣ヲ冠リ尾ニハ一種ノ空管毛有テ相擊ツトキハ音ヲ發ス豪猪ハ白晝隱レテ夜間出テ徘徊シ冬日ハ全ク懶慢ナルモノナリ

第十九圖

豪猪



殺生類（カリニヴオラ）

殺生類ハ生肉ヲ食トセルモノニシテ既ニ説シカ如ク其齒ハ其食ヲ取リ且之ヲ碎クニ適當ス即チ目中ノ最モ殘暴ニシテ血液ヲ嗜好セル猫類ニテハ口ノ前部ニ

四齒ノ鋭尖ナルモノアリテ其食ヲ刺ス

殺生類四群アリ

蹠歩類（プランティグレード）即チ歩スル片ハ脚板地ニ接スルモノ

跂蹠類（ディジッティグレード）即チ足ヲ跂テ歩スルモノ

鰭脚類（アンフィビアス）即チ水陸ニ住スルモノ

食蟲類（インセクティヴォラス）即チ昆蟲ノミヲ食トセルモノ

蹠歩殺生類　熊（ベア）ハ此類ノ標本トナスヘシ其足ノ裏面全ク地ニ接シ後肢ニ依テ立ツヲ得故ニ其敵ヲ禦ク片ハ直立シテ前肢ヲ奮ヒ若シ敵ヲ攫ムヲ得ハ之ヲ抱キ緊ルヲ常トス

第二十圖及ヒ第二十一圖ハ熊ノ脚板ヲ示セルナリ讀者後章ニ見ル所ノ獅（ライオン）足ト軟フレハ何等ノ差異アルカヲ知ルヘシ第二十二圖ハ白熊トテ寒地ニ住メル一種ノ熊ニシテ極メテ游泳ニ巧ナリ冬日ハ雪中ニ潜ミ或ハ氷塊ノ罅隙ニ群集ス

熊類ハ他ノ殺生獸ノ如ク生肉ノミヲ食トセス亦草菜ヲ食フ其齧齒ハ物ヲ截斷セスシテ摧破スルニ適ス

跂蹠殺生類　跂蹠殺生類ハ猫（ヂャカウ）、靈猫（ヂャカウ）、狗（ドッグ）、黄鼬（テン）、水獺（カハウソ）等トス

猫族　凡ソ猫族ノ爪ハ平居足蹠（オッタルス）ノ中ニ隱（カクル）レ之ヲ用フルニ當テ外ニ顯ハル讀者試ニ猫子ヲ見ヨ平時ハ足柔

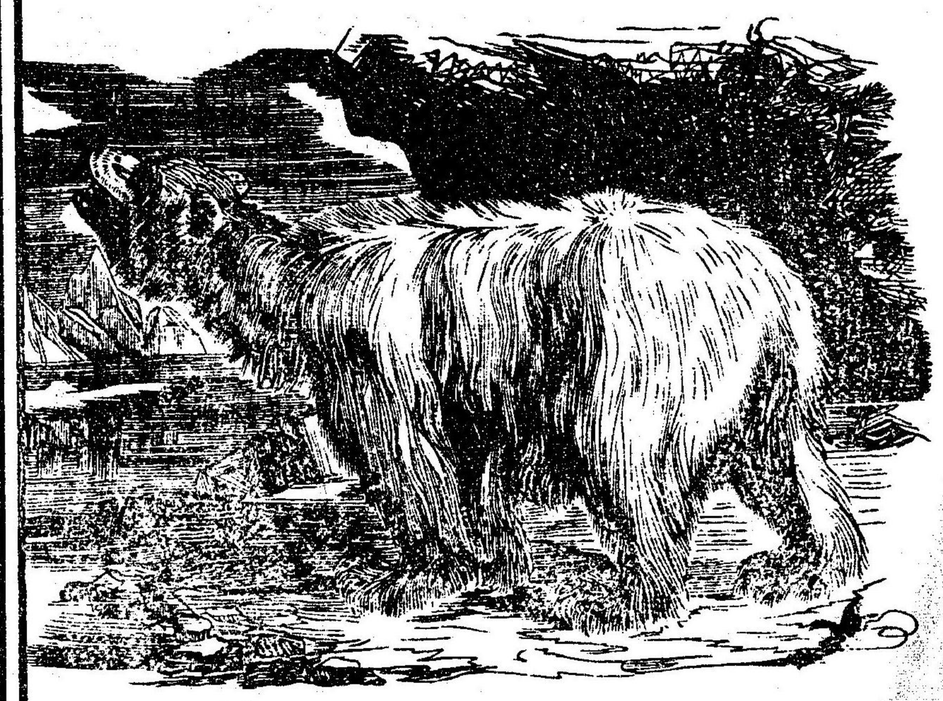
第二十圖　熊ノ前肢

第二十一圖　熊ノ後肢

ラカナレ氏其鼠ヲ捕フル中ハ復以前ノ如クナラス猫族ノ脚板ハ柔軟ニシテ彈力強シ故ニ盗蹠跫聲ヲ發セス上器ノ上ヲ歩スルモ一物ヲ損セサルナリ其舌ニハ滿面小刺アリテ内方ニ曲リ大ナルモノニ至テハ甚タ強クンテ骨ニ附

第二十二圖

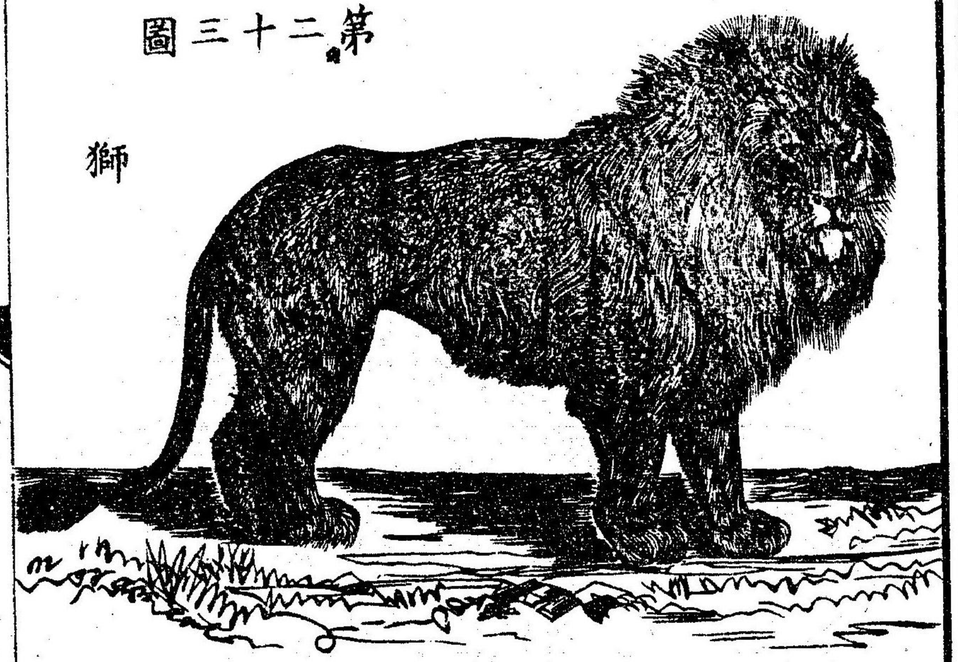
白熊





第二十三圖

獅



着スル肉ヲ剥クハ恰モ薑擦ヲ以テ削ルカ如キ狀アリ又骨骸ハ頗ル彈力アリテ強健ナリ益シ跳躍ニ容易ナラシメ且餌ヲ求メテ荊棘叢林ノ中ヲ走ルニ便ナラシムルモノナリ敏捷強猛諸獸ノ魁ト稱スル獅第二十三圖ヲ見ルヘシ虎豹等此ニ屬ス

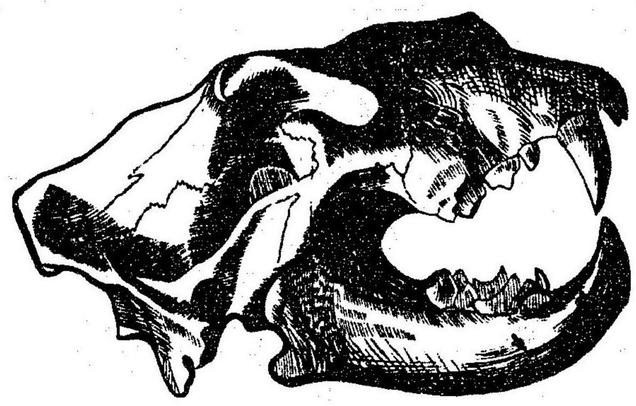
第二十四圖ハ獅ノ頭顱ニ

シテ殺生獸ノ齒ヲ示シ第二十五圖ハ獅爪ノ隱現セルヲ表セルモノナリ

靈猫（ジャコウネコ サイゴノネコ）ハ元來亞非利加ノ産ナレ氏亦阿蘭陀ニ産シテ其生スル所ノ香料

第二十四圖

獅ノ頭顱



第二十五圖

獅爪

現ハルヽモノ　隱ルヽモノ

ハ現ニ貿易品ノ一トナレリ蓋シ靈猫ハ猫ト狗トノ中間ニ居ルモノナリ

狗　狗ハ衆人ノ熟知スル所ノモノナレハ今茲ニ呶々スルヲ要セサルヘシ然レ氏尚一言スヘキヿアリ凡ソ世界各邦狗ナキノ地ナク人アレハ必ス狗アリ狗ハ人類ノ朋ト謂フヘシ殊ニ其性忠直ニシテ極メテ主人ニ親馴ス狗ハ前肢ニ五趾アレ氏後肢ニハ四趾アルノミ且爪ハ讀者ノ知ルカ如ク隱現セサルナリ

狼ハ狗ノ種類ニ屬ス然レ氏性甚タ殘忍卑怯ニシテ習性心意大ニ狗ト異ナレリ常ニ隊ヲ結ンテ家畜ヲ襲ヒ時トシテハ己ニ對敵セル猛獸ヲ攻ムルヿアリ

狐ハ尾太ク鼻尖リタルハ犬狼ト異ナリ骨ノ彈力アリテ體軀ノ較輕キハ猫ニ似タリ白晝ハ眼瞳直立ノ橢圓形トナル亦猫ノ如シ其性狡黠ニシテ諺ニモ狡猾狐ノ如シト謂フ

黄鼬ハ跂蹠類ノ一ニシテ其體細ク長クシテ脚短カシ常ニ小動物ヲ餌トシ殊ニ家鼠鼷鼠鳥類ヲ嗜ム且鳥類等ヲ得サルトキハ其卵ヲ貪食ス

水獺ハ魚類ヲ以テ半ハ食ニ充テ之ヲ逐フテ巧ニ水ヲ潜ル故ニ鰭脚殺生類ト云フモ可ナリ世人往々之ヲ飼フテ漁獵ニ用フルコトアリ

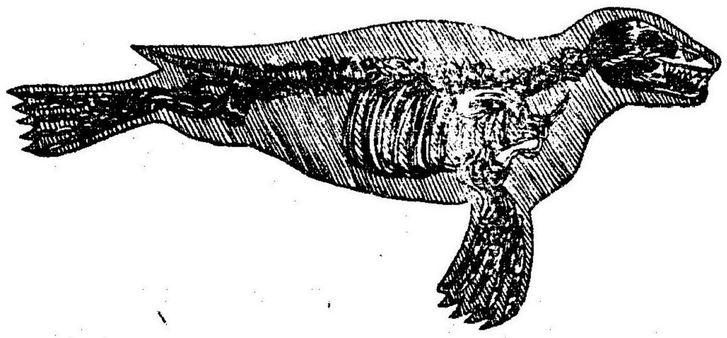
海獺ハ水中ニ住テ陸ニ上ルヿ稀ナリ故ニ一層鰭脚類ニ近ク形チ海豹ニ能ク似タリ此獸ハ墨頷峽及ヒ其近隣ニ産スレ𪜈其數少ナク皮ノ價貴シ毛色黑ヲ帶ヒ毛端銀ノ如キ光アリテ佳品ハ二百圓ヲ價ス

鰭脚殺生類ハ常ニ水ニ住シ時々暖ヲ資リ兒ニ乳哺スルノ他海濱ニ上ルヿ稀ナリ其族二アリ一ヲ海豹ト云ヒ一ヲ海馬ト云フ

第二十六圖ノ海豹ヲ見ルヘシ肩胛骨アリ手足指趾アリテ毫モ四足獸ニ異ナラス但シ海豹ハ鯨ノ如ク指爪皮肉ヲ被フルト雖𪜈後趾ヲ欠カス四肢ヲ備具シテ後肢後ヘニ曲ル

海豹ハ顔面狗ニ似テ性温柔ナリ多ク北極海ニ住ム哥

第二十六圖



海豹

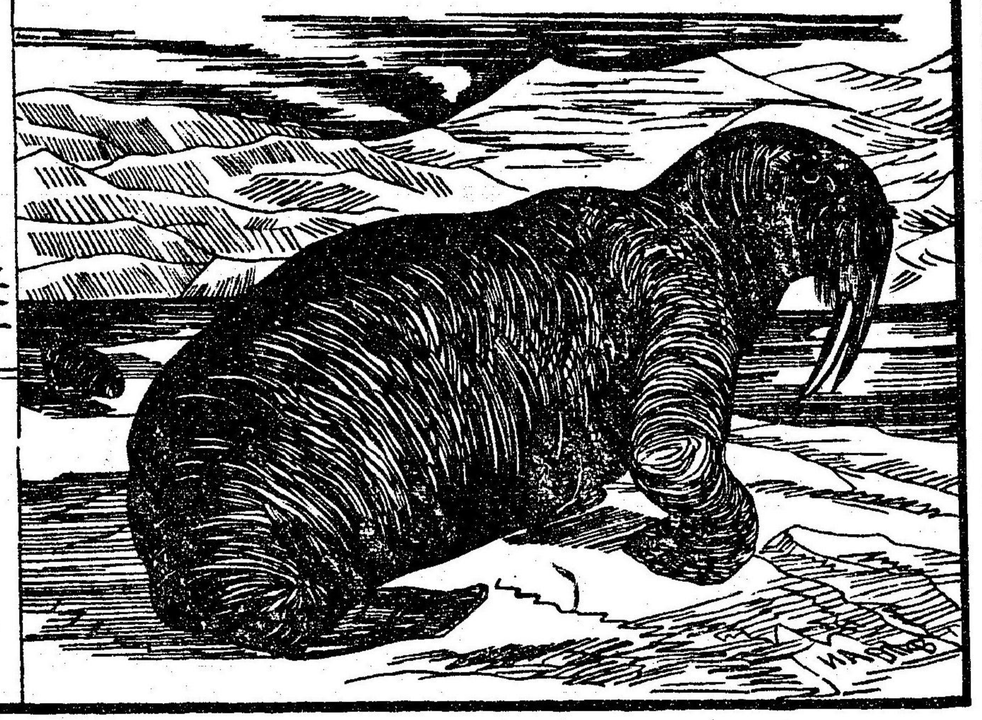
里蘭人及ヒエスキモーハ其肉ヲ食ヒ其脂ヲ燈火燃燒ニ供シ其皮ヲ衣テ余剩アルトキハ船ヲ覆ヒ筋ヲ以テ絲ニ代ヘ腸臟モ尚ホ種々ノ用ニ充テ性命ヲ保ツニ海豹ニ依ル多キニ居ル

海馬ハ馬ニ似ルニ非ラスシテ習性海豹ニ異ナラス唯軀幹大キク形チ稍陸獸ニ近キノミ然レトモ其齒ハ甚タ奇ナリ二枚ノ牙上顎ヨリ生シテ恰モ象牙ノ



如ク其長サ二尺ニ餘ルモノアリ但シ象牙ハ前面ニ出ルト雖トモ海馬ノ牙ハ直ニ下ニ向フ而シテ其牙ハ白熊ノ攻擊ヲ防キ且進行ニ用アリ水面ヲ出テ岩ヲ攀チ或ハ氷塊ニ登ルトキハ鉤ノ如ク鉤柱シ身ヲシテ落サラシム其體ノ大ナルハ最大ノ牛ニ過グ牙カノ

第二十七圖　海馬



強キ想像スヘシ又牙ヲ以テ海藻ヲ截リ取リ食トス

食蟲類

哺乳類ノ蟲ヲ食フモノ多シト雖モ此目ニ入ルモノハ身體ノ構造特ニ蟲ヲ食フニ適スルモノナリ蓋シ無數ノ昆蟲繁殖ノ速カナルヲ想フヤハ造化此増殖ヲ制シテ害ヲ防クニ備フルノ智巧ニ感スヘシ

食蟲類ニ主眼ノ族三アリ鼹鼠(ムクラモチ)猬(ハリネズミ)鼩(モグラ)是ナリ

鼹鼠ノ深ク地中ニ隧(ヘヅミチ)ヲ穿チテ不斷之ニ住シ時アリテ穴ヲ出ルハ普ク人ノ知ル所ナルカ四脚短小ニシテ其行歩スル恰モ匍匐スルカ如シ故ニ鼹鼠地上ニ出ルヤハ其貌甚タ醜シ其性ハ温柔ナルカ如シト雖モ兇暴ニシテ常ニ相搏噬ス



第二十八圖

猬

鼹鼠ノ眼ハ甚タ小ク日光ヲ受ルニ足ラサルカ如シ然レトモ嗅官敏捷ニシテ恰モ目ノ能力ヲ併有スルニ似タリ

猬(第二十八圖ノ見ル可シ)ノ刺毛ハ自己ノ意ニ任シテ直立シ其立ツヤハ全身劒ヲ植ルニ似タリ若シ其危窮ニ迫ルヤハ身ヲ縮小シテ球ノ如クニシ敵ヲシテ之ニ觸ルヽ能ハサラシム其食物ハ昆蟲、蝦蟆、土蝸等ニシテ白晝ハ庖厨ノ間隙ニ潜

ミ夜中出テ蟲ヲ捉リ食フ倫敦ニテハ家屋ノ害ヲナセル蟲ヲ芟除セシムルカタメニ之ヲ飼フ所少ナカラス鼬鱙ハ形狀皮毛鼷鼠ニ似タリ然レ𪜈鼻長クシテ自在ニ動キ體ヨリ一種ノ香ヲ放ツ故ニ猫ハ之ヲ殺スモ食ハスト云フ

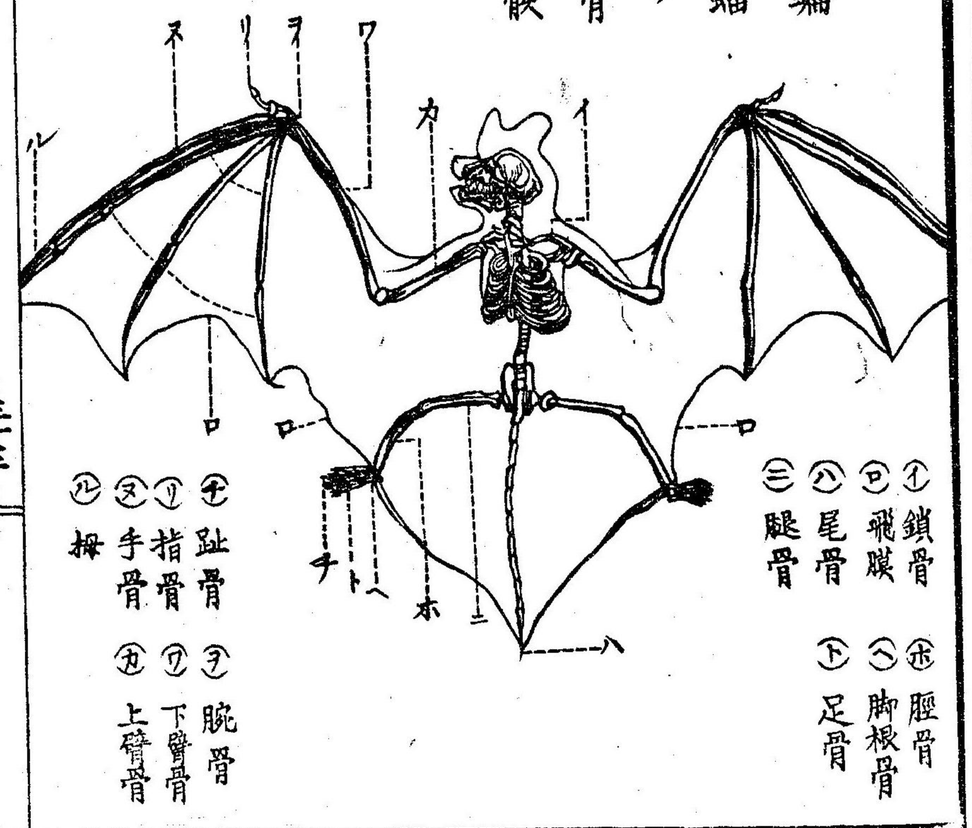
## 翅手類

翅手類（チイロプテラ）即チ蝙蝠（カハホリ）（バット、トンブイド）類ハ飛翔ノ能力アリテ他ノ哺乳類ト異ナリ然レ𪜈飛翔ノ機ハ薄膜ノ全體ヲ蔽ヘルモノニテ鳥ト全ク異ナリ但シ膜ヲ支ユルモノハ四指ニシテ四指ハ第二十九圖ニ見ユルカ如ク著ク長ク其皮膜ノ展張セルハ恰モ傘ノ骨ニ絹ヲ張ルカ如シ



蝙蝠（バット）ニ數種アリ或ハ果實ヲ食トシ或ハ羽蟲ヲ食トシ又ハ動物ノ生血ヲ吸フモノアリテ齒ノ整伍各〻別アリ又其形狀大小ニ至テハ固ヨリ一樣ナラス或ハ鼻ノ前ニ木葉ノ如キモノ

第二十九圖　蝙蝠ノ骨骸



ヲ著ルアリ「キクガシラカハホリ」是ナリ或ハ耳ノ著ク大ナルアリ或ハ全身ノ長サ二三寸ニ過サルアリ或ハ七八寸ニ至ルモノアリ

蝙蝠ハ飛翔ノ膜大ナルヲ以テ行歩ニ便ナラス且地ヨリ躍リテ空ニ翔ル速カナラス故ニ白晝ハ足ヲ懸ケ倒ニ眠ル第三十圖ヲ見ルヘシ冬時洞中古屋等ニ蟄スルモ亦斯ノ如クス

第三十圖

蝙蝠ノ眠レル狀

四手類（クヲドルマナ）

四手類即チ狆猴類ハ四肢ノ拇指子指ト全ク離ル、ニ非ス後肢ノミ拇指孤立シテ手ノ如クナレハ此類ヲ目シテ四手獸ト云フハ正シカラス宜シク手趾類ト名クヘキナリ而シテ四手類ノ手ハ人類ノ手ト異ナリ子指細ク長ク拇指短クシテ指頭子指ニ接スル能ハス精工ノ業ニ適セサルナリ故ニ其實ヲ云ヘハ手ト稱シ難ク木ニ登リ枝ニ垂ルヽノ鈎ト謂フヘキノミ足亦猩々等ノ最上等ノモノニ於テモ尚人ニ比スル能ハス足蹠平ラカニ地ニ接セス其外方ニ依テ歩シ指長クシテ指間廣ク將指（アシノヤモヒ）第三十一圖ヲ見ル可シ拇指ノ如ク成リテ孤立ス蓋シ四手類ノ足ハ物ヲ握ルノ機ニシテ行歩スルノ具ニアラサルナリ且獼猴類ニテハ踵骨ノ後ヘニ出ル

少ナクシテ脂肉ノ之ニ對スル力弱シ故ニ久シク直立スル能ハス忽チ手ヲツキ或ハ杖ニ倚ル

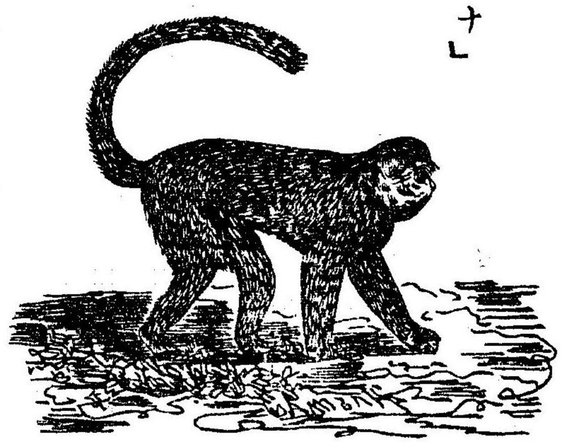
四手類三族ニ分ル斜鼻孔(アシビデ)、平鼻孔(セビデ)、曲鼻孔(ヒミニリデ)、是ナリ斜鼻孔類ハ古世界ニ産ス猿猴(シミ)、果然(モンキー)、狒ノ類ニシテ諸種ノ物ヲ食フ故ニ其齒人ト同シ

平鼻孔類第三十二圖ハ新世界ノ猴ニシテ齒一枚人類ヨリ多ク齒數三十六枚アリ曲鼻孔類ハ馬達加斯島(マダガスカル)ノ外産スルノ地ナク其齒多クハ不齊ニシテ巨指ニ鋭爪アリ

第三十一圖

猩々

第三十二圖



「モナ」

猿猴(テナガザル)ハ尾ナク又臉嚢ナシ後肢ノ掌ニハ厚皮ヲ被フルモノアリ或ハ之ヲ被フラサルモノアリ

果然(モンキー)ハ臉嚢、長尾及ヒ必ス掌上ニ厚皮アリ四肢ニテ歩シ尾ニテ均稱ヲ得ルヲ常トス

狒(ヒヒ)ハ臉嚢及ヒ掌皮猿猴ト異ナリ尾短クシテ果然ト差

アリ

二手類

二手類ハ唯人類ノミ人ハ萬物ノ長ニシテ地上ニ栖息シ言語スルノ能アルノミナラス物理道義ヲ辨シ思想ヲ世界ニ用フルノ能力アリ但シ人身窮理ヲ茲ニ説クハ本意ニ非サルヲ以テ人類ノ一ハ須臾ラク他書ニ讓ル

動物小學巻之上　終

14
2
46